



東証(TSE):6264

**株式会社マルマエ**  
**2019年8月期 第1四半期決算 補足資料**

2019年1月4日



**総合力で未来を拓く**

小物から大物までの真空パーツ・高精度部品

## PL分析

PL

	2018年8月期 第1四半期累計期間		2019年8月期 第1四半期累計期間		
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)	対前年同期 増減率 (%)
受注高	1,088	—	933	—	△14.2
受注残高	882	—	736	—	△16.6
売上高	1,045	100.0	1,174	100.0	12.4
売上原価	618	59.1	782	66.6	26.6
売上総利益	427	40.9	391	33.4	△8.3
販売管理費	108	10.4	165	14.1	52.4
営業利益	318	30.5	226	19.3	△28.9
経常利益	316	30.3	224	19.1	△29.2
特別損益	0	—	△4	0.4	—
当期純利益	220	21.1	150	12.9	△31.7
EPS (円)	18.55	—	11.57	—	△37.6

Point

### ①受注状況

- 半導体分野：730百万円  
(対前年同期：16.2%減)
- FPD分野：179百万円  
(対前年同期：10.8%減)
- その他分野：23百万円  
(対前年同期：47.7%増)

### ②売上高

- 対前年同期12.4%の増加
- ※分野別の詳細は次頁

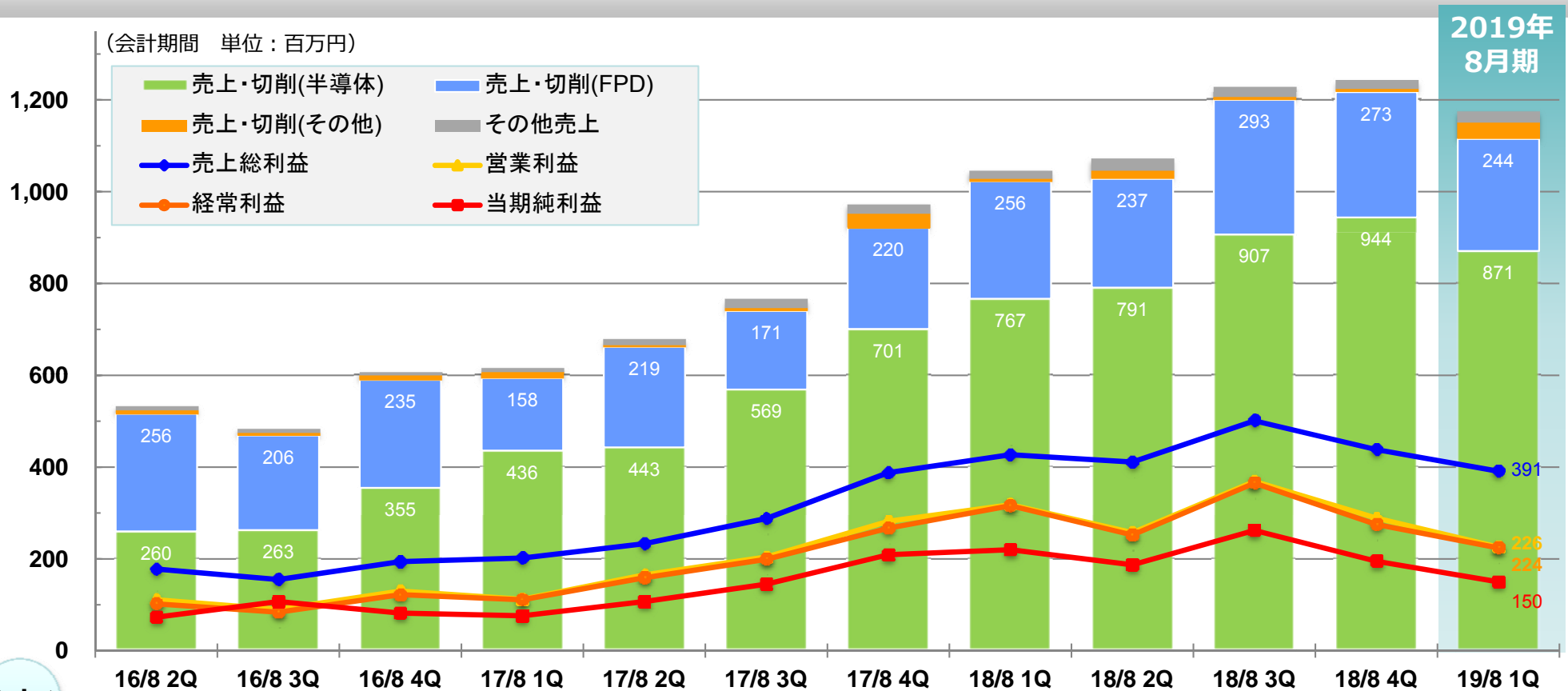
### ③売上原価・売上総利益

- 材料費：44百万円増  
(対前年同期：31.1%増)
- 労務費：42百万円増  
(対前年同期：22.2%増)
- 外注加工費：0.9百万円増  
(対前年同期：0.6%増)
- 減価償却費：43百万円増  
(対前年同期：70.1%増)

### ④営業利益

- 販管人件費：22百万円増  
(対前年同期：50.4%増)

## 四半期業績の推移



Point

### ①売上高は、半導体・FPD分野共に停滞傾向

■半導体分野：871百万円（対前年同期：13.5%増）

- ・受注停滞の中高水準の受注残をこなす。自動化による生産体制強化を継続

■FPD分野：244百万円（対前年同期：4.7%減）

- ・中国向けG10.5液晶装置の生産順調

■その他分野：34百万円（対前年同期：1301.9%増）

### ②損益面は出水事業所設備稼働に伴う費用増等で減益

- ・生産設備の増強と人材採用を積極的に進めていることで、減価償却費や労務費等が大幅に増加
- ・内部管理体制の強化による販管費の増加

グラフは四半期毎の会計期間の数値ですが、ポイントのコメントは当期の累計期間の数値となっております。

## B/S分析

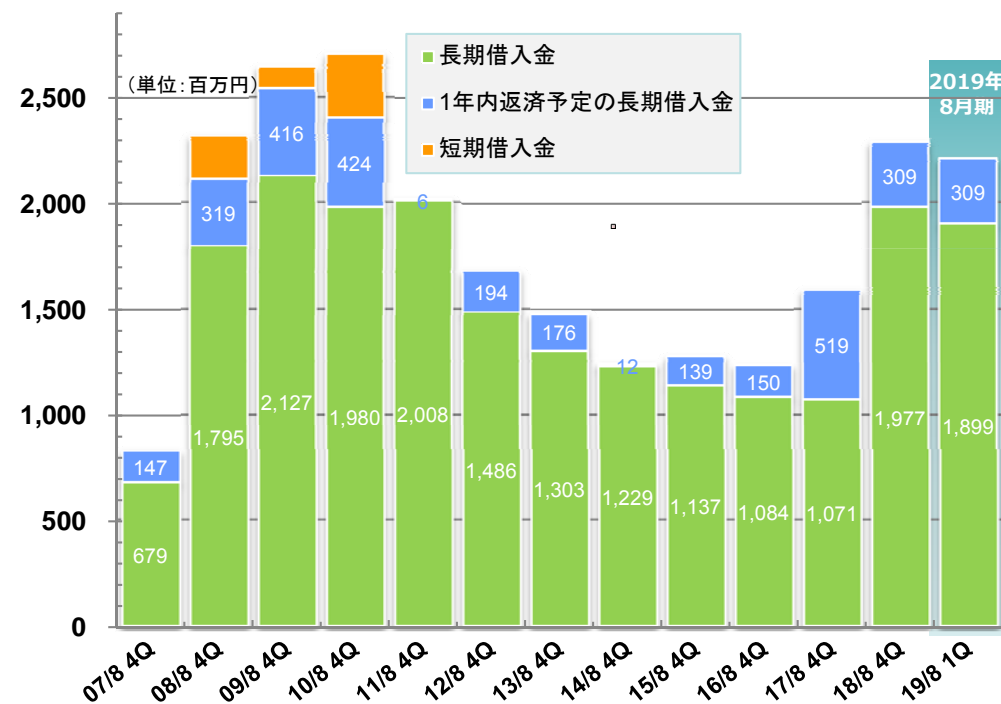
B/S

(単位：百万円)	2018年8月期 会計年度末	2019年8月期 第1四半期会計年度末
流動資産	4,344	3,689
現金及び預金	2,612	2,014
売上債権 (受取手形・売掛金・電子記録債権)	1,236	1,217
たな卸資産	465	439
固定資産	3,743	4,172
建物・土地	1,816	1,899
機械及び装置	1,679	1,670
流動負債	966	796
有利子負債（短期）※	309	309
固定負債	1,989	1,912
長期借入金	1,977	1,899
負債合計	2,955	2,709
純資産合計	5,132	5,152
総資産	8,088	7,862

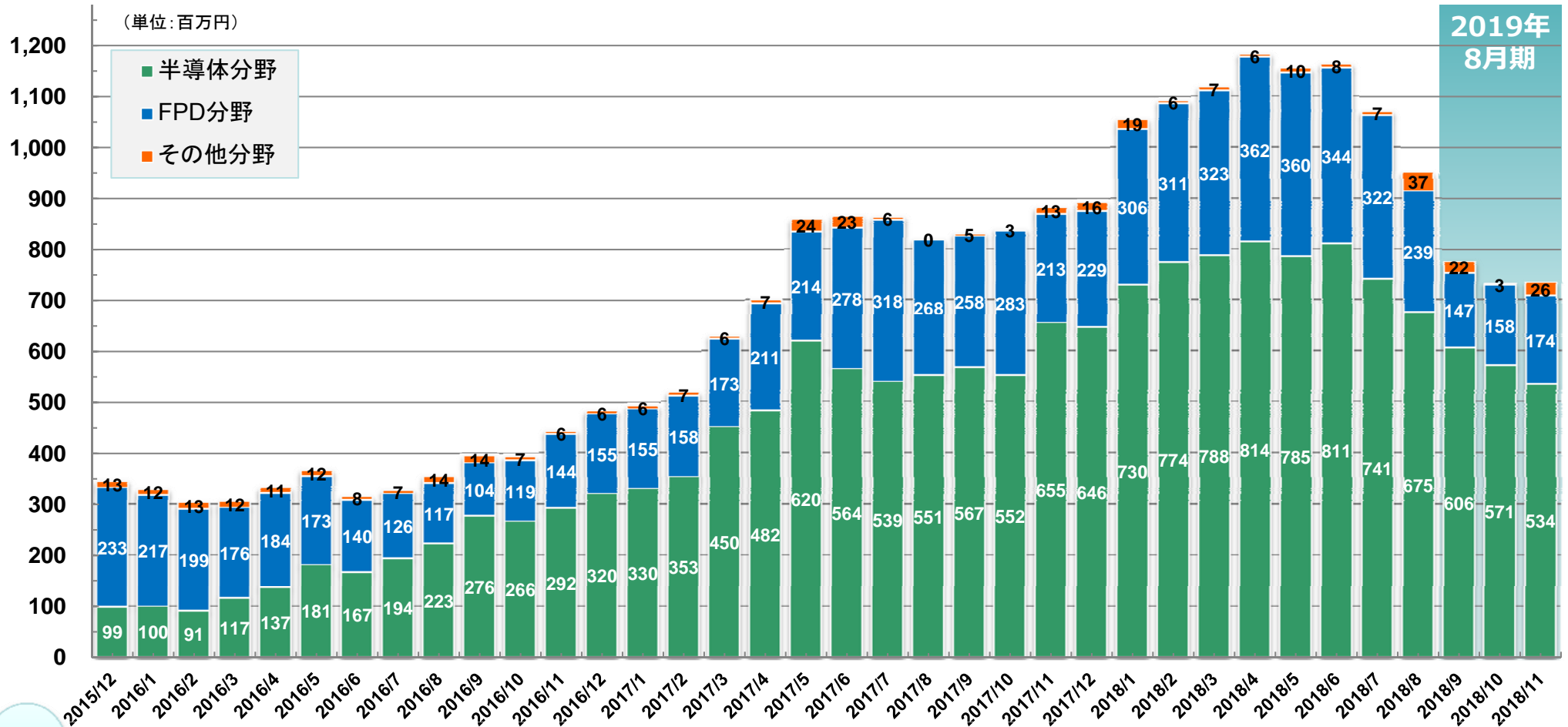
有利子負債（短期）：短期借入金 + 1年内返済予定の長期借入金

Point

- ① **資産：7,862百万円(前期末比:226百万円減少)**
  - 有形固定資産：413百万円増加
  - 売上債権：18百万円減少
  - 現金及び預金：597百万円減少
- ② **負債：2,709百万円(前期末比:246百万円減少)**
  - 長期借入金：77百万円減少
  - 未払法人税等：238百万円減少
- ③ **純資産：5,152百万円(前期末比:20百万円増加)**
  - 利益剰余金：20百万円増加
  - 自己資本比率：63.5%→65.5%



## 月次受注残高の推移



2019年  
8月期

- Point**
- 半導体分野では、DRAM向け及び3D NAND向け投資の急減速が見られる中、CPU及びMPU等のロジック向けの投資案件は急回復
  - FPD分野は、中小型パネル向けは停滞しながらも、大型液晶パネル向けの投資は順調に推移

※当社の受注は、案件ごとに長短さまざまなリードタイム (LT) があり、LTの長い案件が多いと売上高に比べ受注残が多めで、LTが短い案件が多いと売上高に比べ受注残は低めに表れます。

### 販売分野別の環境と方針

#### 半導体分野

- ◆ ロジック好調も3D NAND投資は想定以上の減速
- ◆ 引き続きエッチャーとCVD装置のシェア拡大狙う
- ◆ 工場稼働の余力を活かし試作受注強化

#### FPD分野

- ◆ G10.5装置は堅調もG6は2019年半ばまで案件無し
- ◆ 大型電子ビーム溶接機設置でG10.5装置の受注拡大狙う
- ◆ 塗布工程からエッチング工程へ受注拡大図る

#### その他分野

- ◆ 携帯端末向け停滞も太陽電池や原子力分野で引き合い
- ◆ 主力分野の生産停滞による余力を活用し受注拡大狙う
- ◆ 太陽電池製造装置案件で進展

EBW：電子ビーム溶接機とは、真空内で電子ビームを高速に加速し、素材に照射することによって素材を溶融させながら溶接する加工機です。

# 3.2019年8月期の業績予想

## 今期の見通し(損益・設備投資・固定費要因)

業績  
予想

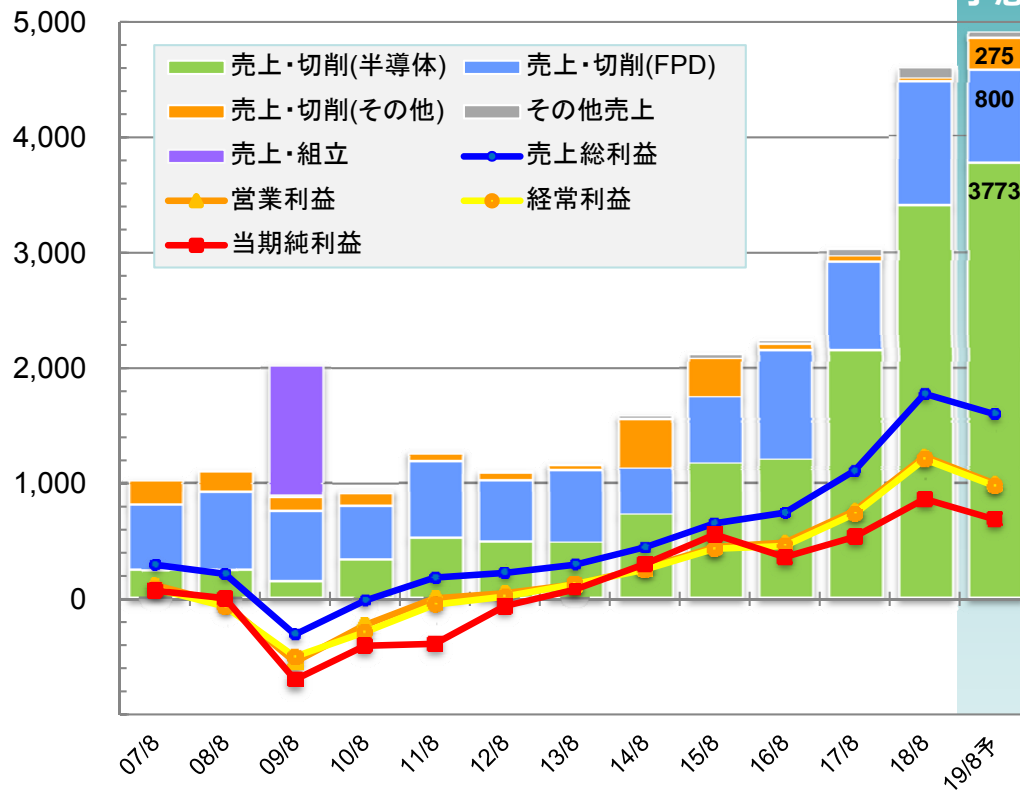
(単位：百万円、1株当たり当期純利益は円)

2019年8月期 業績予想	売上高	営業 利益	経常 利益	純利益	1株当たり 純利益
第2四半期(累計)	2,250	390	380	267	20.46
通期	4,900	1,000	980	690	52.86

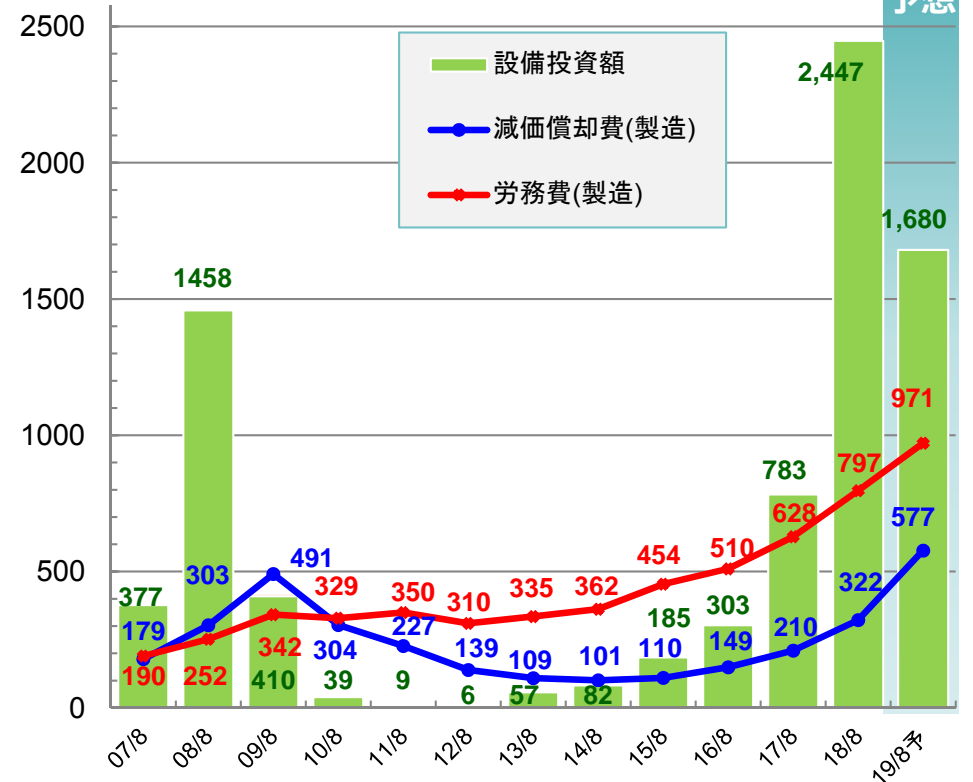
Point

- ✓ 半導体分野はロジック投資再開でMPU需給改善し、NAND投資再開へ好影響予想
- ✓ FPD分野は中国における大型液晶テレビ向けの投資は堅調に推移
- ✓ 半導体分野向け当社設備増強は中断。FPD向け大型EBWの稼働開始により売上拡大

(単位：百万円)



(単位：百万円)



設備投資額は現時点における予想額で、変動があります。



# Company Profile

企業情報



## 当社製品は世界中で半導体・液晶製造装置の心臓部を支えています

### 主要工程

エッチング  
CVD  
コータ/デベロッパ  
スパッタ  
枚葉洗浄  
アッシング  
ウエハーボンディング  
イオン注入  
アニール

### 主要製品

真空チャンバー  
シャワーヘッド  
排気板  
静電チャック  
ヒーター類  
上部電極  
ターゲット  
搬送系パーツ類  
各種真空パーツ類

※画像はイメージです



本資料に掲載された情報、及び、口頭によって説明された実現していない内容に関しては、ある一定の仮定の元に予想された見通しであり、マルマエ経営陣の判断など不確実要素を含んでおります。

本資料は、株主・投資家などの皆様にマルマエの現況と経営方針をご理解いただくために作成されたものであり、利用者に対して、当社株式の購入・売却など投資判断を提供するものではありません。投資に関する責任は負いません。

数値などの情報には注意をはらっておりますが、掲載の内容については未監査の数値も多く、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報、またはその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料に関するお問合せ先

株式会社マルマエ 管理本部総務課 IR担当

ir@marumae.com

TEL 0996-64-2900 FAX 0996-64-2863